

麦栽培情報 4月号

平成 30 年 4 月 2 日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【小麦】

1 生育概況

2月までの気温は平年より低く推移しましたが、3月の気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間も多く推移しました。草丈は平年よりやや短く、茎数は平年並みからやや少なく、生育は平年より遅れています。

出穂期は、11月下旬播種で「シロガネコムギ」で4月13日頃、「ミナミノカオリ」で4月17日頃と予想されます。また、今後の降雨による麦への影響は大きいので、枕地のまわりや排水溝を整備し、ほ場内に滞水しないように排水対策を徹底してください。

2 赤かび病防除

◎ 防除適期は、開花期（出穂後7～10日）です。

※出穂期は、ほ場全体の40～50%の茎が出穂した日になります。

【防除の目安】（小麦11月下旬播種の場合）

品種名	防除適期	薬剤名及び10a当たり使用量	使用回数	使用時期
シロガネコムギ	4/20～4/23頃	トップジンM粉剤DL 4kg 又は トップジンM水和剤 1,000倍/100ℓ	出穂期以降は2回以内	収穫14日前まで
ミナミノカオリ	4/24～4/28頃			

※防除適期は今後の気温で変動することがあります。

※粉剤は散布後5～6時間内に降雨にあうと効果が低下します。週間天気予報等を参考にしながら早めの準備を心がけ、条件のよい日に散布して下さい。

3 「ミナミノカオリ」の穂揃期追肥

タンパク質含有率の向上のため、必ず実施してください。

施用時期は赤かび病防除と同時期（穂揃期～穂揃期後7日後）に、硫酸を15kg/10a施用してください。尿素の葉面散布の場合は、開花期と開花期後7日後頃の2回実施します（尿素3.5kg/100ℓ /10a×2回で硫酸15kg/10aに相当します）。

※穂揃期は、ほ場全体の80%以上が出穂した日になります。

4 周辺作物への農薬の飛散防止

隣接ほ場に他作物が作付されている場合、農薬がかからないように風向きや風の強さに十分注意して下さい。

農作業安全確認運動

慣れと油断が招く農作業事故